

自分がされてうれしいことを相手にしよう

～ 「～しない」から「～しよう」に代えると行動は変わる？ かも… ～

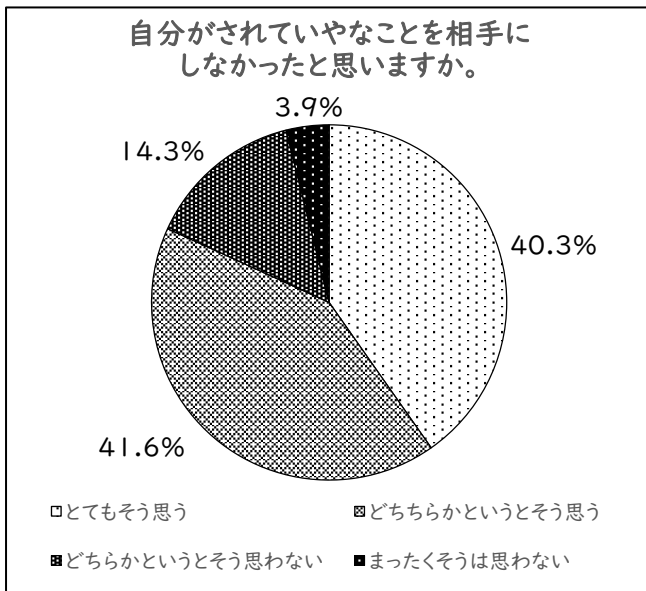
校長 本間 智英

今日で2学期83日が終了しました。令和3年も残すところ1週間です。今年も、新型コロナウイルス感染症によって様々な制約があった1年でした。本校では、2学期から給食は各教室で食べる、全校が集まることは極力行わず、別の方法を考えるなど、感染予防に努めてきました。また、おうちの方からも様々な面でご協力いただいたことに感謝申し上げます。

写 真

11月26日(金) わくわく祭り
タブレットからクイズ

さて、下記は、全校の子どもに行った「2学期がんばりアンケート」の質問項目の一つです。これは、1学期始業式に話をした「ひとつの約束」です。人の気持ちは分からない。だから、自分がされていやなこと、言われていやなことはしないようにしよう、想像力を働かせよう、と話をしました。



みなさんは、この結果を見てどう思いましたか。もちろん、「とてもそう思う」が100%になることがよいと思います。しかし、人と人が関われば100%になることが難しいのは大人の世界も一緒です。(だからといってこれでよいということではありません。100%にする指導は引き続き行います。)

私が思ったことは、子どもは自分のことをしっかり振り返っている、ということです。自分が相手にしてしまった嫌な言動を覚えている、ということです。

つまり、言っではいけないこと、してはいけないことは分かっていたけれど、言っ

てしまった、やってしまったと反省しているのでは、と解釈することもできます。これからの言動に期待がもてますね(こう考えるのは私だけ? 楽観的?)。

しかし、この約束は、「～しない」と否定形になっています。否定形では具体的にどう行動するか分からないことがあります(例えば、「廊下を走らない」と注意しても「歩く」と分からない場合など)。そこで、私は、3学期から次のように言おうと考えました。

自分がされてうれしいこと、喜ぶことを相手にしよう

皆様、良い年をお迎えください。